

第3回森町総合計画審議会 議事概要

日 時：平成17年11月18日（金）午後2時～4時

場 所：町民生活センター 講義室A・B

出席委員：鈴木奉会長、友田和副会長、太田委員、榊原委員、岩附委員、打田委員、大竹委員、大場委員、奥宮委員、小倉委員、小野委員、片岡委員、川口委員、鈴木よ委員、原田委員、松井委員、村松委員、山根委員

事務局：助役、鈴木課長、杉山課長補佐、長野係長、福島主事
静岡総研（石井主任研究員、村松研究員）

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

（1）総合計画に関する基礎資料の補足資料について ＜資料に基づき静岡総合研究機構より説明＞

＜意見・質疑応答等＞

委 員：＜資料1 P 5の家族類型別一般世帯数について＞

3世代の世帯数の割合が、森町は30.2%と高い割合になっているがどういう理由が考えられるのか。都市ではこういう傾向は見られないと思うが、住宅との関係があるのかどうか。

事務局：いろいろな要素があると思うが、住宅事情や高齢者の一人世帯、高齢者のみの世帯が少ないということではないか。

委 員：森町は、第1次産業、農業の割合が高い。農業の場合、家族労働ということが言えると思うので、そのため2世代、3世代の家庭が多いということも言えるのではないか。

委 員：資料の財政力指数は、総務省が発表している決算カードの数字と同様か。

事務局：決算カードの数字と同様と考えてよい。

（2）町民アンケート調査の結果報告書について ＜資料に基づき静岡総合研究機構より説明＞

＜意見・質疑応答等＞

委 員：アンケート結果について、委員には配られているが、町民に対してはどのように広報していくのか。

事務局：町民に対しては、地域ごとの懇談会で説明している。もちろん参加していない人もおり、ホームページには載せていく予定。概要については、広報もりまち10月号に掲載している。希望者がいれば配布することも検討していきたい。

委員：印象としては、森町で頑張っているのは、30代、40代、50代の人々である。20代については仕事、勉強等に一生懸命になっているため、なかなかまちづくりにまで手がいかない。全体として「まちづくりについて活発にやらなくてもよい」「いい町なので静かに暮らしたい」という傾向が見える。良い面では、「自然が良い」など現状に満足している。しかし、合併をせず、単独でやっていくのであるから、町民はもっと奮起しなくてはいけない。そういう意味では、ちょっと寂しい気がする。どこの町でもそうだが、与えられてやるものか、自主的にやるものか、ということが大事であるが、このアンケート結果から見ると、自主的にやっていくという気概が感じられない。また、情報については自分から獲得しなくてはいけない時代である。一部の人は、頑張っているが、しかし、全体としては他力本願的などころが見える。アンケート調査の結果からも、役場に依存している面が多いと感じる。だまっけては町が衰弱してしまう気がする。自分たちでやっていくにはどうしたらよいか。誰もやってはくれない。まちづくりへの意識を地域へ広めていただきたい。

委員：アンケート調査結果のP33の今後の町政の進め方について、もう一度説明していただきたい。三倉地区の「公共工事の見直し」について値が低いが。

事務局：園田・飯田地区のグラフについて、訂正があるかもしれないので、確認したい。三倉地区の「公共事業の見直し」が低いのは、地域としてももう少しインフラの整備をして欲しいということがいえるのではないか。

委員：アンケート調査の結果からも分かるように、三倉地区は、周りの地域と状況が少し違う。厳しい財政状況の中で、三倉・天方地区は、過疎化・高齢化も進んでおり、どうなっていくのかという不安がある。しかし、工夫すればもっと住みよい地域になるとは思う。

委員：アンケート調査の結果報告書P24の満足度と重要度のグラフについて、満足度が低く、重要度が高い施策には、基盤整備の部分が多い。傾向としては不満の多くなる部分ではある。しかし、今後、お金のかかるものをどうするのか。施策には、ハードとソフトがあるが、今後はソフトの面で森町を考えることが重要

だと思う。人口2万人規模の難しさもある。工業誘致も難しく、簡単ではない。農業や産業の振興も難しい問題である。しかし、まちづくり全体としては、官民スクラムを組んで進めることはできる。そうすることによって森町らしさが出てくると思う。

(3) 協働まちづくり委員会の協議状況について

<資料に基づき事務局説明>

委員：ここ3回くらい3グループに分かれて、分野別の施策についてワークショップ形式で話し合いをしてきた。次回の24日の委員会では、全体で提言書のもととなるものを検討していく。委員みんな忙しい中、時間をかけて、まちづくりについて考えてきた。提言書には、みんなの意見が透けてみえるものを作っていきたいと思う。川口先生からも、危機感が足りないというお話があった。今後、委員が積極的にまちづくりに参加していくようになればと思う。文字にすると分かりづらいので、どんな雰囲気で行っているか大勢の方々に傍聴していただきたい。

委員：6・7・8回を傍聴した。委員の方々、みんなが熱い想いをそれぞれ語っている。事務局の方で終わりますと言わないと、議論は終わらない。協働まちづくり委員会の委員の想いがしっかりと入った提言を作り上げて頂きたい。また、協働という意味をどのように考えているか。協働とはどういう意味かということ表現して欲しい。

(4) 地域ごとの懇談会における意見の概要について

<資料に基づき事務局説明>

委員：来年度から森林環境税が始まる。噂では、森林環境税は保安林には適用されないと聞いたが。

会長：保安林については、森林環境税は適用されないと思う。保安林については、以前から補助をもらって整備をしており、すみ分けをするということであると思う。

委員：正式には県議会の12月議会で決まる。森林環境税の計画では、10年間で84億の予算である。静岡県内には約50万ヘクタールの森林がある。林道もなく、個人所有で管理の行き届かない森林で、そのうち影響が大きく至急手入れの必要な1万2千ヘクタールについて、施業する予定である。保安林については、これまでどおり補助金で対応願いたい。

委員：三倉地区のほとんどは、水源涵養保安林ですべて保安林である。普通林も大切であるが、水源涵養保安林にも利用できないか。

会 長：保安林については、これまでも町などの協力を得て、いろいろやってもらっている。

委 員：協働まちづくり委員会の皆さんにお願いがある。この委員会だけで終わるのではなく、今後、委員会のメンバーが積極的にまちづくりの活動をしていって頂きたい。例えば、ボランティアでコミュニティーバスの運転手をやるなど。走り出しから色々なことをやるのが大事。委員会の会長は、この人はよく仕事をやるということがよく分かるはず。それを見分けるのも会長の仕事であると思う。総合計画に考えた施策が載る載らないにかかわらず、まちづくりの活動に進んで参加していただきたい。

委 員：委員の中には、元気な高齢者もいる。今後、委員が中心となってまちづくりをやっていきたいと思う。

委 員：町民に危機感がない。アンケートの問9、10、11の結果からも、町民の意識が分かってくる。これから、協働まちづくり委員会からも提言が出てくる。地域ごとの懇談会からも意見はでてくる。意見や考え方に対して、どのように手を付けていくのか。第7次総合計画の冊子をみたが、第8次については、町民に対し、危機感をもって、こう進めていくんだというような計画を出していくことが大事であると思う。そうすれば実効性のあるものになると思う。町の予算についても、10年前の予算よりも低いものになっている。財政シミュレーション的なものをみて考えていかなくては、計画を練っただけになってしまう。実情を把握することが大事であると思う。

副会長：商工会の会長としてこの審議会に参加している。森町商工会は中小零細企業の商工会であり、予算の半分が補助金である。財政的にも難しい時期にあるが、補助金が減額されると苦しい。まちづくりに関しては、どういう町にしたいのかということがまとまっていないのが寂しい。方向付けをしっかりと欲しい。財政力の弱さを何でカバーするか。どうしても必要であれば民間の資金も集めても良いと思う。そういうことをやってでも方向性を付けることは重要だと思う。「やるべきこと」、「これだけは」ということは、いち早く行動に移すことが大事だと思う。知人から「森町は単独でよかったなあ。それだけのいいものをもっている。それをどう発揮していくか、期待している。」という話を聞いた。私も良いものがあると思う。そこに知恵を出す必要があると思う。官民の力を合わせる方向へ、出来ることからやっていく。来月の3、4日には「町並みと蔵展」が町の活性化のために企画されている。住んでいる人たちが立ち上がろうとしている。その空気を大きくすることが大事である。住民も気がついてきた。これをチ

チャンスとみて、これ以上住民の意識を下げないように、行動していくことが大事だと思う。アンケート結果では、町職員の能力の向上ということが言われている。私は、職員には能力があると思うので、それを引き出すようにすることが大事。下からの意見を吸収して、まとめて、最後に決断して頂くようにして頂きたい。観光事業についても、商工観光課は庁舎の2階にすみの方で生ぬるい。お客様への満足度という意味では、「いらっしやいませ」のスタイルをとって欲しい。そうすればもっと良くなると思う。観光全体として、今はまだ来た人をがっかりさせる様な要素があるので、姿勢から直していく。商工会としても協働で考えていく。

委員：農林課と商工観光課が一緒になる話もある。観光分野は、庁舎の1階に降りて、町の顔でやっていくようではなければいけない。

委員：中山間地域について、現在三倉・天方地域では、農林課、中遠農林事務所と協力して、今後、どうしたら発展していくか、振興していくかということを「森町ツーリズム」として研究しており、連携をとって進めていって欲しいと思う。

副会長：森高と周智高校の合併について、今後どういう学校が欲しいか、残った土地をどうするか、そこにどういう教育施設をつくるのか、もう少し町民からも意見がでてきてもいいと思う。協働まちづくり委員会でも話をして頂きたいと思う。

委員：住民アンケート調査や地域懇談会で町民からの意見を吸い上げているが、役場の職員に対してはどのようにしているか。総合計画策定への職員の関わり方はどのようになっているか。

事務局：各種情報については、課長会議等で出来るだけ早いタイミングで流している。協働まちづくり委員会、審議会、アンケート調査結果などもホームページに載せている。全職員に同じレベルで情報の浸透を図るのは、職員の意識の問題もあり、なかなか難しい。総合計画の策定に関しては全職員が関わるように、手段は尽くしている。今後も全職員がさらに意識を持つように進めていきたいと思う。

委員：総合計画が出来る前に、職員からの意見の吸い上げをしたほうが良いのでは。

事務局：職員については、現在、意見の募集もしているところである。

(5) その他について

事務局：今回は、12月22日(木)14時から同所にて開催予定。また、周智高、森高の合併に関する話については、協働まちづくり委員会でも話題になっていることも付け加えさせて頂く。

4 閉会

(以上)